

平成 30 年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	1 日々の確実な業務遂行により，学校の教育業務を円滑に進める。	(1) 各種の実施計画原案を1ヶ月前に作成する。 (2) 関係部署との連絡調整を徹底する。	A	<p>シラバスを作成し，授業進度の目安と評価基準を明確にして授業展開をすることが深化してきている。一方で，授業進度の見直しや報告・確認作業が十分でない。軌道修正や注意喚起がしやすい環境作りが急務である。</p> <p>授業振替を教員相互にて行っている。このシステムに慣れ，授業の抜けがないのは良しとすべき点である。組合せ授業のため，自習にされている事案がないわけではない。授業振替達成率100%を目指して，確実な方法論の提示をする必要がある。</p> <p>スクールバス運行会社との連絡・情報交換の体制が再整備の一環として「事故対応マニュアル」の策定をした。無事故にて安全運行が基本であるが，緊急時に</p>
	2 担当係以外にも業務を理解し相互に補完する体制を作り，運用する。	(1) 係ごとに正副の担当者を配置し，相互に業務にあたる。 (2) 各係とも前年度の業務内容の引き継ぎを確実にして，運営面での抜けをなくす。	A	
	3 教員の授業力向上を図る（教育計画） ・授業計画の作成 ・研究授業に実施	(1) カリキュラムの適正な実施に常に注視し，履行できるようにする。 (2) シラバスの作成を授業単位で作成するよう依頼し，授業計画と評価基準を明確にする。計画に沿って実施されているかを長期休業前に確認し，軌道修正と注意喚起をする。 (3) 研究公開授業を教員ごとに年1回以上実施する。公開授業強化週間を設定し，順次できるようにし，公開授業後に観察教員の意見を集約	B	

		して周知する。		迅速に対応できることとなった。
4	授業の振替の徹底 (時間割) ・自習時間を極力なくすようにする。	(1) 授業担当者間での変更を原則とするが、振替案を提示する。 (2) 授業の抜けを防ぐ。自習時間をなくし、授業振替達成率100%を目指す。(授業時間の確保) (3) 確認テスト監督割り業務を輪番制にして、チェック体制を強化する。	B	
5	教科書・副教材の集約と事務処理 の徹底 (教科書)	(1) 次年度使用教科書の取りまとめと確認作業を正確に行う。 (2) 教科書販売の企画や運営を円滑に行う。	A	
6	正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	(1) 月別異動報告の把握と報告をする。 (2) 会議録など文書帳簿類の管理を徹底する。 (3) 定期考査の後に成績個表を早期発行し、生徒の学習意欲を向上させる。	A	

7 教職員使用の消耗備品適正数の把握と管理 (備品)	(1) 教室の学習環境を整え, 授業などの学習活動がスムーズに行えるようにする。 (2) 適正な数の把握をし, 消耗品の費用を抑える。	B		
8 図書館担当の事務職員との連絡調整の徹底 (図書)	(1) 図書室を開室し, 学習する場を提供する。	B		
9 情報集約と確実な配車 (バス配車)	(1) 学校行事などの特別編成時に抜けないようにする。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1 勤労観や職業観を持たせ、将来に対して、夢や希望が持てるようにする。	キャリアガイダンス、進路講演会、進路別見学会、病院体験を実施し、進路を考えるきっかけになるものを企画する。	A	B	<p>【1について】</p> <p>ガイダンスについては、進学・就職・医療系において、各学年、コースの現状に合わせた内容で実施でき、大きな役割を果たしたが、事後指導のさらなる充実や、他学年との情報共有が課題である。ただ、一部のガイダンスにおいて、業者⇄参加大学の連携がとれておらず、当日生徒が講座を受けられない事態となった。今後は、参加大学⇄高校の連携をとる必要があると感じた。</p> <p>病院体験については、医療職を目指すうえでの意識の低さが出てきた。次年度については、1年生は夏前までは意識を高める期間とし、夏以降に病院実習を入れるなど変更の必要を感じた。また、実習がなかった3年生については4月に病院実習を入れることを考えていきたい。</p> <p>医療演習の時間は、病院実習や校内講演会、外部の説明会参加など活用したが、今後もこの活用法が課題である。</p> <p>就職指導については、求人状況も良好で職</p>
	2 到達度・理解度を確認させ、進路達成に結び付ける。	本校の状況に合わせ、大きく3つの分野（大学進学・就職・医療看護）の模擬試験を実施することや、その対策（各教科へ模擬試験の過去問の提供）にも力を入れる。	B		
	3 進路指導に関する知識や意識面のレベルアップを図る。	進学実績の改善を図り、進路ガイダンスや進路情報誌の配付、大学案内の請求、進路だよりの発行、大学訪問、指定校の確保、受験対策問題集の購入（赤本など）、研修会への参加を行う。 進路指導部の教員だけにこだわらず、研修会や大学説明会の紹介をする。	B		

			<p>場訪問等も問題なく実施できたが、履歴書を書く練習や指導の時間が不足していた。例えば夏の課外授業同様に行うとよいと思った。</p> <p><b>【2について】</b></p> <p>模擬試験については、3分野の模試を採用し実施できた。今後は、共通テストの傾向に合わせた新傾向に変わっていくため、各社の模試を研究する必要がある。</p> <p>今後の課題としては2点あり、1つ目は、模擬試験の結果をいかに個別面談に生かすかや、模擬試験前後に各教科が指導に時間を割けていなかった点です。2つ目は運営面で同一日に複数業者の模試を実施しているため時間割や欠席者への対応が複雑であった。</p> <p><b>【3について】</b></p> <p>進学資料を揃えることや、先生方からの問い合わせに対して、いかに早く対応できるかが進路指導部の教員には求められる。今後も、様々な研究会や学校訪問を通して、どのような質問にも対応できる力をつけることを継続したい。</p> <p>また、入学定員厳格化の影響で大半の受験</p>
--	--	--	---

				<p>生が安全圏を重視する傾向にあるが、今年度は実力よりも数段上の大学をチャレンジし見事合格出来た生徒もいる。チャレンジする生徒が不安にならない環境づくりを忘れなようにしたい。目標としていた進路だよりについては、学年統一のものが作成できず、課題が残りました。</p>
--	--	--	--	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒指導部	1 交通ルール・マナーの向上	(1) 道路標識と危険行為の周知 (2) 自転車通学者への安全指導 (3) 校外における巡回，立哨指導 (4) 講話，集会，HRでの事故防止に関する指導	A	大きな交通事故もなく，苦情も少なかったが，スクールバス内での乗車マナーが悪い生徒がいることを指摘された。集会や個人的にも注意はしたが，目が届かないところでもマナーが徹底されることを目指していきたい。これは公共交通機関においても同様であるため，ルール・マナーに関する意識の向上を図っていく。また，校外での生徒の様子をみる必要性もあるため，立哨・巡視指導を強化できるように本校に見合った計画をしていく。さらに，SNSにおいて迷惑行為等の動画が流れ，社会的に問題となっていることを踏まえ，本校生に関わるトラブル防止のため，SNS利用について特に注意喚起，指導をしていく。
	2 基本的生活習慣の確立	(1) 面談による注意喚起 (2) 保護者会等での協力依頼 (3) 教職員の共通理解と声かけ指導 (4) 「生徒心得」の周知	B	
	3 SNSに関するトラブル防止と情報モラルの向上	(1) トラブル回避のための情報提供や集会，HR指導	A	
	4 学校行事の活性化	(1) 東風クラブ役員の指導 (2) コミティ（委員会）活動の活性化	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者の会の円滑な運営を図る。	(1) 保護者の会との連絡を密にし、より連携できるように、その調整役としての役割を果たしていく。 (2) 3つの委員会（広報委員会・生涯学習委員会・生徒支援委員会）の担当者を決め、役割分担を明確にした上で協力し合う。	A	A	(1) 保護者の会との連携をさらに深めていきたい。 (2) 生徒支援委員会の巡回における連絡体制を見直したい。 (3) 親睦の集いの時期を9月以降に見直したい。
	2 対外的なイベントに協力する。	(1) 「かすみがうら祭」や、巡回などのボランティア協力を充実させていく。	B		
	3 対外的な諸活動を滞りなく行う。	(1) 式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送、年賀状等の準備を早めに滞りなく行う。	A		



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
保健厚生部	1 環境美化 学習環境の整備	(1) 清掃状況の放課後巡回。 クラスのゴミ箱の入れ替え 清掃用具の把握 東風祭の環境美化の徹底 (2) コミティの活用 東風祭でコミティによる環境整備および衛生指導を徹底する。	B	B	<p>コミティによる清掃状況の放課後巡回が計画通りに行うことができない時期があった。1年を通して行動できるようにしたい。</p> <p>今年度はクラスのゴミ箱の入れ替えを行った。年数で劣化するものは随時チェックをしてきたい。</p>
	2 保健 保健衛生を充実	(1) 救急救命講習の実施 1学年の救急救命講習を消防署と連携し実施する (2) 保健行事を滞りなく実施する。	A		<p>第1学年の救急救命講習を消防署と連携して滞りなくできた。クラスの人数が増えてきたのでよりよく講習が受けられるように工夫したい。時期としては第2学年が修学旅行を行っている時に実施したい。</p> <p>今年はインフルエンザが流行した。3年生のークラスが学級閉鎖になった。予防の呼びかけが後手に回ってしまった。</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者を確保する。 特別進学，進学，医療進学の各コースで入学者を増やし，5クラス編成を目指す。	(1) 受験者の確保 (2) 説明会への動員数の増加 (3) 個別見学・相談の充実 (4) 中学校・学習塾との信頼関係の形成 (5) HP の充実、情報発信の強化 (6) 制度の確立と分担による効率化	B		入学者は昨年度に比べ、若干の減少であったが、健闘した。引き続き、広報活動は、受験生、保護者に丁寧な対応を実施していく。本校の生徒や授業の様子を実際に見ていただくことで、本校の魅力を伝えていく。 多様な生徒を受け入れ、向き合う教育の実践や道徳による心の教育を重視する点を広くアピールする。
	2 受験者を確保する。 推薦・一般単願・一般併願の各入試区分で増員を図る。	(1) 中学生・保護者一人ひとりに働きかけ，本校の魅力を伝える。 (2) 推薦・単願優遇制度の企画。 (3) カリキュラム変更をアピールする。 (4) 奨学生制度の拡大をアピールする。	A	B	昨年度に比べ、受験生は増加傾向にある。ただし、本校を第一志望とする推薦や単願の生徒への働きかけを強化する。 (1) 土曜開校日の周知徹底を図り、個別相談の機会を充実させる。 (2)・(4) 経済的な優遇制度の確立を図る。 (3) 教育相談、不登校生徒への対応を広く紹介する。
	3 説明会への参加者を確保する。	(1) 生徒主体による親しみのある説明			参加者数は増加傾向にある。生徒主体

	学校説明会 3回, 入試説明会 2回入試対策学習会 3回における来校者数の増加を目指す。	<p>会の企画 (はるかぜ広報サポーターの参加)</p> <p>(2) さわやかなポスター, 学校案内によるイメージ戦略</p> <p>(3) 早期の告知, 受付開始</p> <p>(4) 広告媒体の活用</p> <p>(5) 女子中学生にアピールする。</p>	A	B	<p>の説明会は継続実施。今年度は、天候不順による説明会の中止があり、申し込み者への連絡対応について準備する。</p> <p>(1)・(2)・(5) 継続実施。</p> <p>(3) 新聞広告について検討する。</p> <p>(4) 中学校への告知を早める。</p>
4	個別見学・相談の充実を図る。	<p>(1) 土曜日開校日を有効活用する。</p> <p>(2) 個性あるブースの設置</p> <p>(3) 補助生徒参加によるアピール強化</p>	B		<p>本校の募集活動の要である。土曜日の開校日を周知徹底し、中学生、保護者が来校する機会を増やすとともに、外部での説明会でも広くアピールする。</p> <p>(1)・(3) 継続実施。</p> <p>(2) 広報グッズの検討をする。</p>
5	中学校・学習塾との信頼関係を形成する。	<p>(1) 担当者を明確にし, 企画運営を図る。</p> <p>(2) 一斉訪問の実施 (年間 3 回)</p> <p>(3) 中学校対象説明会の実施</p> <p>(4) 学習塾対象説明会の実施</p>	B		<p>訪問担当者の負担軽減を図るとともに、偏りを是正する。入試後の学習塾への訪問を強化する。中学校教員向けに県南私学の合同説明会への参加を検討する。</p> <p>(1)・(2)・(3)・(4) 継続実施。</p>
6	HP の充実, 情報発信の強化を図	<p>(1) 入試広報部専用ページの開設</p>			<p>本年度より立ち上げ、27 回更新するこ</p>

	る。	(2) 担当者を輪番制として、定期的更新で情報発信の強化	A		とができた。次年度も継続し、更なる充実を図る。 (1) 継続実施。 (2) 担当者だけでなく、入試広報全員で担当し、一人当たり2回を目安に情報発信をし、30回程度更新する。
	7 制度の確立と分担による効率化を図る。	(1) 年度当初に各企画・運営の分担をする。 (2) 各係りとの連携、調整を図る。	B	B	内勤・外勤、各係分担などなかなか定着できず、業務の偏重是正が急務である。 (1)・(2) 継続実施。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第1学年	1 基本的な生活習慣・学習習慣の確立	(1) 二者面談を実施し常に生徒理解に努める。 (2) 道徳を通して「挨拶と返事」・「聞く」等のテーマを年間を通して意識させ実践を促す。 (3) 家庭との連絡を密にし、欠席・遅刻をできる限り減らしていく。 (4) 進路を意識させるとともに、学習習慣を身に付けさせる。	B	・年間5回の二者面談を実施することができ、生徒理解の足がかりとすることができた。更に日常的な声かけや、保護者との連絡を密にすることで、生徒一人ひとりを見守っていけるように、環境を整えていくことが継続課題である。そのような環境の中で、欠席・遅刻を減らし、進路意識をより高めていくことが、今後の課題である。  ・入学当初は学年全体として、人とのかかわりを苦手とする生徒が多かったが、部活動や学校行事に積極的に関わる中で、少しずつ自信を持つことができるようになった。今後もそれらを継続していくことが課題である。
	2 人間関係を築く力の育成	(1) HR活動や道徳の時間・行事などを通して、人とのかかわりを体験的に学ばせていく。	B	
	3 部活動や特別活動の推進 (生徒個々に活躍の場や居場所のある環境作り)	(1) 部活動や学校行事への積極的な関わりをさせていくことで、自信をつけさせるような配慮をする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 安心・安全な環境づくり ・秩序を持った規律ある学年 ・途中退学者ゼロ ・謹慎、停学に該当する問題行動を10件以内 ・不登校生徒をゼロにする	(1) 面接指導の徹底 朝、休み時間、昼休み、放課後など、時間の有効活用 (2) 校舎内の巡回 (3) 保護者との密な情報交換	B	B	・放課後の過ごし方を統一する。遊んでいる人をなくして勉強モードにする。 ・なるべく2分の1延長を認めないようにする。 ・服装、髪型をしっかりとさせる。  ・LHRを計画的に運用する。  ・インターアクト・部活動を通じてボランティアに積極的に参加する。
	2 目標を持って学習に取り組む ・高校2年次で明確な進路希望先を6割以上確定させる ・成績優秀者10名以上	(1) 面接指導の徹底 ・朝、休み時間、昼休み、放課後など、時間の有効活用 (2) 道徳、LHRで進路につながる情報提供 (3) アカデミーの充実	B		
	3 学校の活性化 ・部活動・同好会の加入率を60%以上にする ・積極的にボランティア参加 ・学校行事を盛り上げる	(1) 部活動の大切さを促す。 (2) ひたむきに取り組める事を見つけさせる。 (3) HR・LHRを使って社会性を培う大切さを伝える。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年	1 基本的な生活習慣の定着と規範意識のさらなる向上	(1)「挨拶」「身だしなみ」「時間厳守」「整理・整頓」等の基本的な生活習慣を守らせる。最上級生として自覚を持ち、後輩たちの手本となるような行動を心がけさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を守らせる指導を、個別指導、全体指導を適時行い、指導を徹底させる。</li> <li>・合同説明会、校内ガイダンスなどを実施し、就職・進学ともに意識付けや情報収集に役立てることができた。次年度は成績上位者向けの説明会を充実させたい。</li> <li>・入学定員厳格化の影響を考え、AO、推薦、一般などの受験方法について、最適なものを選ばせる必要がある。面談や個別指導の時間をさらに確保したい。</li> </ul>
	2 進路意識の向上と進路目標の確立そして、進路達成	(1) LHR や面談を通して進路指導をするとともに、見学や説明会に参加させる。 (2)入試方法について、自分に合ったものを選ばせ、科目試験、面接、作文など、必要なものを指導する。	B		
	3 入試に対応できる学力の養成	(1)習熟度別・進路目的別に、授業を展開し、個に応じた指導を軸に、入学試験や就職試験の演習を行う。また、放課後や土曜日、長期休業などを活用して対策講座を実施する。11月以降は、特編授業を組み入試に備える。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
国語科	1 進路実現のための実力養成 ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力 ・表現力	(1) 入試頻出の漢字テキストを使用し、漢字テスト・追試等を実施する。また、古文単語テストも同様に実施する。追試験を徹底させる。 (2) クール毎に、評論と小説を交互に一つずつ扱い、更に演習問題を行う。 (3) 古文漢文は、基礎的事項の習得に努めさせ、更に問題演習を積ませる。 (4) 1・2年の小論文対策は、夏休みから、第3・4クールにかけて実施する。	B		<p>・今年度より、55分授業を展開することになり、昨年度に比べ10分時間が延長された。そのため、これまでは、なかなか組み込むことが難しかった、グループ学習や話し合い活動をより多くの場面で、展開することができた。また、漢字テストや古文単語テスト・小テスト等も定例化することができた。更に、生徒が主体的に取り組めるように、動機づけをしていくことが、今後の課題である。</p> <p>・応用力をつけるための問題演習の定例化や、古文・漢文の基礎的事項の習得に関しては、定着をはかることが難しく、今後の課題である。</p>
	2 社会生活を営むための基礎力養成 ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎	(1) 漢字テキスト（常用漢字の全て）に基づき、漢字テストの定例化とともに知識の定着を図る。追試験の徹底。 (2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。（過去問等を使用し、意識を高める。） (3) 文学史・故事成語・四字熟語・ことわざ等の基礎知識は、折に触れて扱っていく。	A	B	



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
地歴公民科	1 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。 2 学習習慣を身に着ける。	(1) 小テストを定期的に行う。 (2) 生徒が自学できるよう自作のプリントを工夫し作成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理・歴史・公民を融合した授業の取り入れ →合同授業を数回行った結果、生徒たちの取り組み方がよかったこともあり、さらにレベルアップしたい</li> <li>・公民系の授業を現代の諸問題を取り入れたものを増やしていく・</li> </ul>
	3 思考能力の向上や学習意欲を持たせるため、アクティブラーニングなど、生徒主体の授業を行う。	(1) 資料集・CDROM/DVDなど視覚的な資料を使用し、グループ学習、プリント学習を行い、発表やレポートなどをまとめさせる。	B		
	4 歴史・地理・公民の各教科が、それぞれ関連を持ち、成り立っていることを理解させる。 5 現代からみて、さまざまな出来事の解決などを考えさせる。	(1) プリント等、地理・歴史が同時に把握できるよう作成する。 (2) 新聞やスマートフォンなどを活用し、世界の出来事を把握させる。 (3) 時事の検定問題集を活用する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
数学科	1 基礎学力の定着	(1) 習熟度別授業や個に応じた指導を行う。理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、小中学校の内容に戻り、放課後や土曜日、長期休業などを活用して個別指導を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試共通テストに対応した指導の充実を図る。</li> <li>・55分授業の活用の仕方を工夫し、授業の進度や演習時間を改善する。</li> <li>・学習意欲を向上させるため、教材や指導法を工夫する。</li> <li>・小テストの実施回数が少ないクラスがあった。実施回数を増やし、その時点での学習到達度や事業内容の理解度を確認させる。</li> </ul>
	2 継続的な学習習慣の育成	(1) 授業ノートや演習ノートの点検を随時行う。また、定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに、小テストを実施し、学習への意欲を喚起させる。	B		
	3 進路目標に応じた受験指導	(1) 進路目標別授業を実施し、大学入試、専門学校入試、公務員試験、就職試験など、それぞれに対応する演習を行う。 (2) 演習授業や放課後や土曜日の課外授業、個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	<p>1 思考力・表現力を高める。 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、まずは書くことにより、表現力を身につけさせたい。</p>	<p>(1) 演示実験，グループ学習を通じ，レポート作成をさせる。学び合う機会を増やし，新しい考えに気付いたり，自分の考えを再確認したりしながら，自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにしたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果と進度確保を十分に考慮した生徒実験・演示実験の実施</li> <li>・教材研究の徹底。</li>   <li>・個々の学習内容と日常生活や最先端の研究との関わりを意識した教科指導の実践。</li>   <li>・生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選。</li> </ul>
	<p>2 学習意欲を高める。 知的好奇心や探求心を持ち，自然観察や目的意識を持ち観察・実験を行う。</p>	<p>(1) パワーポイント・動画などを利用し，視覚にうったえた授業を展開し，イメージをつくり規則性を理解させる。</p> <p>(2) 教科書，教科書傍用問題集を主に使い，予習復習がしやすいようにする。</p>		

	<p>3 学習習慣を身につける。 予習・復習をさせる。</p>	<p>(1) 小テストの回数を増やし、学力の把握、評価する機会を増やし、生徒の学力に合わせた教科指導を実施する。 (2) 発表など能動的な授業態度を評価していく。 (3) 確認テスト対策として教科書傍用問題集を活用させ、自信を持たせる。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗表に基づいた進捗確保し、予習・復習を促す。</li> <li>・学習効果の確認と進捗確保を十分に考慮した小テストを実施したい。</li> <li>・問題は考査試験対策としても、有効に利用したい。</li> </ul>
	<p>4 進路希望に応じた指導をする。 国公立・有名私大志望者の成績向上センター試験得点目標 8割</p>	<p>(1) 成績上位生徒と下位生徒に対応するために、教科書中心に授業を展開し、上位者にはプリントなどの宿題を出すなど、授業以外で対応する。 (2) 下位の生徒も受験に向かわせるために、実験・観察を取り入れ推薦・AO入試対策を企画する。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験等の事前指導や事後指導、大学入試の過去問題を使つての発展的な学習指導</li> <li>・3年2学期に進学コースで実施した卒業課題研究論文を4月、もしくは2年次より指導し、AO・推薦入試に対応できるようにする。</li> </ul>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健体育科	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	(1) 生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高める。	A	A (1) 来年度も生徒の実態に応じた授業を展開する。 (2) 実技テストの実施を統一したい。 (3) 服装は全体的によくなった。 (4) 見学の生徒を減らすための工夫を行う。 (5) 保健の授業ではグループ学習を多く取り入れることができた。来年度は一斉授業とグループ学習の割合を考えたい。
	2 実技テスト、知識テストの導入	(1) 全学年で評価を統一するために実技テストを導入する。 (2) 実技が苦手な生徒のためにルールなどの知識テストを導入し、授業でのルールをおぼえさせるなどの意識を高める。	B	
	3 授業中の服装の徹底	(1) 授業前に確認を必ず行う。 何回も忘れる生徒への粘り強い指導を行う。	A	
	4 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	(1) グループ学習を取りいれたり、発問を工夫して、多くの生徒が参加させる授業を行う。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
英語科	1 思考する力をつける授業の展開 ・主体的に学ぶ態度の育成  ・複数の英文から趣旨をまとめる読解力の育成	(1) 予習を促す授業構成にし、生徒が予め学習内容に触れるよう促す。 (2) 精読を意識しながらも、段落毎に趣旨を理解するなど、早く読むトレーニングを行う。	A	1 (1) 予習を義務付けられたが、クラスによって意識の違いが見られた。上位のクラスにおいても、習慣化されていない生徒が散見された。予習の徹底を意識していきたい。(2) 3年生を中心に速読を意識した授業ができた。しかし、初見の文では内容を正確にとらえられなかった。1年生では、早く読むことより正確に読むことを意識した授業を展開したい。 2 (1) <b>Speaking</b> に対する苦手意識や、間違えることに対する恐怖心を取り除く必要があった。 <b>ALT</b> との授業では、穏やかな雰囲気の中で、話そうと思わせる環境を作ることができていた。理解度が低いクラスでは暗記が多くなってしまった。(2) 品詞の理解力が乏しく、基本的な構造を作ることができない生徒が多い。1年生では、総合演習の時間で中学生レベルの英作文を行った。今後必要であれば、ドリルを用い、基本的な文の成り立ちを学ばせたい。また、小テストの中にも <b>output</b> の内容を増やすことで理解力を深めたい。 3 (1) 受験に至らない教員でも各自問題を解き、レベルアップを図った。(2) 長文とリスニング問題を解くことで、普段の授業に反映した。また、各外部模試を解き、授業内での対策と解説を行うことで授業の質を上げたい。(3) 研究授
	2 4技能習得を意識した授業の展開 ・ <b>Speaking</b> 力の育成  ・ <b>Writing</b> 力の育成	(1) 簡単な単語を用い、或いは簡単な単語を組み合わせ、自分の考えを表現する。 (2) 絵や写真をみて英語で表現する。表現するための技法・文法を反復学習を通し身につける。	B	
	3 学び続ける教員 ・ 民間の英語 4 技能検定の受験  ・ 問題研究  ・ 研究授業を一回以上実施する	(1) 英検、 <b>TOEIC</b> に加え、 <b>GTEC</b> など、民間英語 4 技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) センター試験だけでなく大学入学共通テストの問題を解くことで、求められる力を分析し、授業に反映する。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B	

					業を通し、個々のレベルアップを図ることができた。
--	--	--	--	--	--------------------------

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術科 (音楽・ 美術・ 書道)	1 生徒一人一人の個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力（演奏・表現・書写）や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) 指導者の経験値や考えを強調しすぎないようにする。	A		古典芸能・伝統芸能の理解のため、芸術共通のコラボレーション授業の実施を模索したい。それにより、生徒が選択している科目以外の内容への理解につながり、生徒個々の情報発信の一端になることが期待できると考える。
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能（邦楽・雅楽、工芸、書道）の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、生徒自身が情報発信できるようにする。	A	A	



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの理解 (生徒・教員)と安定的な運用	納入業者, ソフトウェア業者との連携し, システムを理解する。また, 外部の情報科教員向けの研修会や, 様々な出版社が出している教材から利用可能なものを学び, 指導の幅を広げる。	B	A	<p>【1について】</p> <p>情報科以外の教科が積極的にパソコン室を利用するようになり, その流れを支えて行きたいが, 消耗品の購入費用が増加しており課題である。</p> <p>メンテナンスについては軽微な故障は教員で対応できたが, ネットワーク障害やハード面で故障も多く, 業者と連携してパソコン室の管理を行っていく。</p> <p>【2について】</p> <p>プログラミングを学んでくる生徒が今後入学してくることを想定し, 高校でどのようなつながて行けるか外部の研修会にも参加して行きたい。また, Word や Excel, パワーポイントについては今後も継続指導したい。</p> <p>【3について】</p> <p>2, 3年共に, 権利やモラルに関する授業には多くの時間を割いた。教科書や問題集での指導以外にも, 医師や弁護士, 関連するNPO団体の方々の話も聞かせることが</p>
	2 高校卒業後に困らないような基本的な技術の習得	Word や Excel, パワーポイントなど代表的なソフトの活用を習得させる。	A		
	3 情報モラルの向上	著作権, 肖像権, 個人情報など気が付かないところで法を犯すことがないよう SNS やスマホの利用など身近な例を用いて指導する。	A		

					でき、次年度にもつなげたい。
--	--	--	--	--	----------------